

2005 年以降に多摩区の稲田公園児童プールから救出したトンボのヤゴ

岩田臣生*

The record of larva of dragonfly caught up to emerge from children's pool at Inada-park from 2005 in Tama-ward, Kawasaki city

Tomio Iwata*

はじめに

特定非営利活動法人かわさき自然調査団では、2005 年に里山の自然学校を開校し、毎年 6 月初旬に、プールのヤゴの救出作戦というプログラムを実施している。このプログラムは、2004 年に、当時この公園を管理していた川崎市北部公園事務所から、夏の児童プール開業に向けて、プールを清掃したいと思うが、プールの中に棲息している生物を全て下水に流してしまって良いものだろうかとの相談されたことから、現地を調査して、子どもたちが自然に触れるためのプログラムとして立案したものである。

当時の担当職員は、ヤゴの救出は面白そうなので、地元の町会に相談したが断られたという経緯で、当調査団に相談することにしたとのことであった。

当調査団では、丁度、市民活動によって、都市公園における田圃を維持するために、子どもたちが参加できる仕組みを検討していた。トンボのヤゴの採集は簡単なものではない一方、プールに棲息するヤゴの採集は簡単に沢山のヤゴを採集できると思われ

たので、子どもたちの健全育成に貢献できる事業の一つとして使えると考えた。

里山の自然学校では、多摩区稲田公園の児童プールに棲息しているトンボのヤゴを可能な限り、羽化させて、川崎の空に放すことで、都市化が顕著な川崎の自然を少しでも豊かにしたいと考えて、また大都市の子どもが身近な自然に触れて育つことで、自然を大切にできる人に育って欲しいと願って企画する里山の自然学校の一つのプログラムとした。プールがある稲田公園は多摩川に近い場所に位置している。本稿では、18 年間記録してきた川崎の市街地の中の児童プールに飛来、産卵するトンボの救出した個体数について報告することにした。

観察記録

沢山のヤゴの種類を同定しながら、救出することは困難なので、採集できたヤゴを、アカトンボ型、シオカラトンボ型、イトトンボ型、ヤンマ型に分類して、個体数を調べ、その結果をグラフ化した (図 1)。

最も数が多かったのが、アカトンボ型の

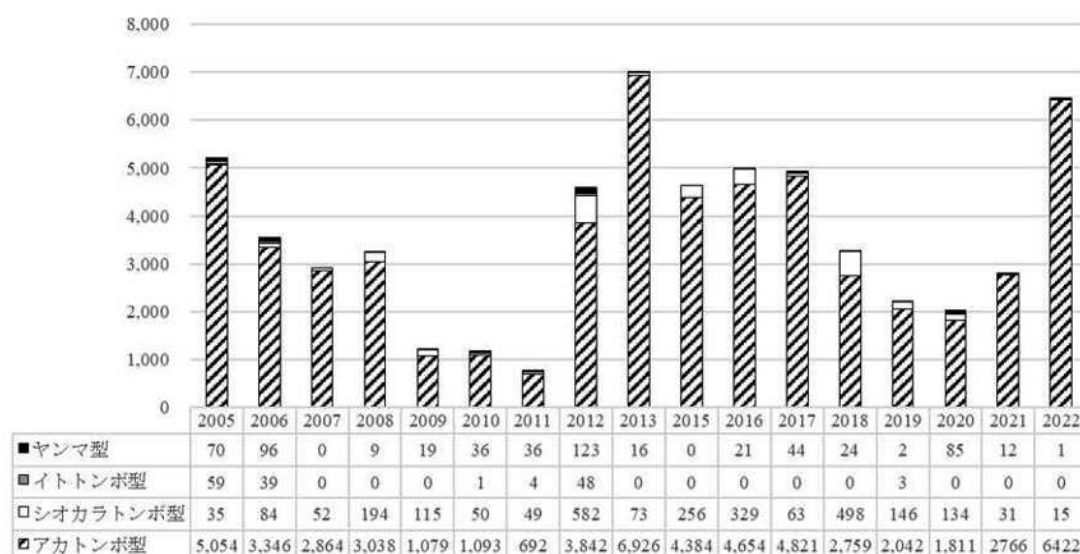


図 1. 採集できたヤゴの個体数

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

ヤゴであり、1種ではないことは直ぐに判断できたので、数個体を羽化させて、成虫を同定してみた結果、アキアカネ *Sympetrum frequens* (Selys, 1883)、コノシメトンボ *Sympetrum baccha* Selys, 1884、ネキトンボ *Sympetrum speciosum* Oguma, 1915 を確認できた (図 2, 3, 4)。シオカラトンボ型は、ヤゴの形状からも、羽化させた結果からも、シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* (Selys, 1848) のみであった (図 5)。イトトンボ型は、羽化させた結果からは、アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* (Rambur, 1842) を確認した (図 6)。ヤンマ型は、ギンヤンマ *Anax parthenope* (Selys, 1839) を確認できた (図 7)。毎回の活動で採集できたヤゴは、棲息していたヤゴの全てではない。また合計数の推移は安定していなかった。最多は 2013 年の 7,015 個体、最少は 2011 年の 781 個体、平均は 3,591 個体であった。4 類型の中では、アカトンボが最も多く、大部分 (83.6～99.8%) を占めていたが、アカトンボは、最

多が 2013 年の 6,926 個体、最小が 2011 年の 692 個体と変化が大きかった。イトトンボ型、ヤンマ型は、台風などで、周囲の樹木の枝や葉が水面に落ちていなければ、産卵されることも無いと思われ、毎年発生することにはならなかった。産卵、越冬、餌などについて、特別な対策を行っていないくても、



図 4. 羽化直後のネキトンボ *Sympetrum speciosum* Oguma, 1915



図 2. 羽化直後のアキアカネ *Sympetrum frequens* (Selys, 1883)



図 5. シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* (Selys, 1848)のヤゴ



図 3. 羽化直後のコノシメトンボ *Sympetrum baccha* Selys, 1884



図 6. 羽化直後のアオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* (Rambur, 1842)



図 7. ギンヤンマのヤゴ *Anax parthenope* (Selys, 1839)

沢山のヤゴを採集できるので、採集したヤゴを子どもたちが少しずつ持ち帰って、親

子で羽化観察を楽しむことができることは、環境教育としての価値は高いと考える。実際、保護者の方から感謝の言葉をいただいていた。

謝辞

稲田公園の管理は、平成 20～21 年度 (2005～2006) は川崎市環境局北部公園事務所、平成 22 年度以降 (2007～2022) は多摩区役所道路公園センターであったが、当調査団が里山の自然学校のプログラムとして、プールのヤゴの救出作戦を行うために、児童プールを使用することを許可していただいたことに、謝意を表したい。